

弘済会とやま

教育振興事業のご案内

令和4年度版



夢ひろがる子どもたちのために



公益財団法人 日本教育公務員弘済会 富山支部

はじめに

教職員の皆さま方には、日頃から大変お世話になり、ありがとうございます。

今年度も、日本教育公務員弘済会富山支部では、教育振興事業の応募がしやすくなるよう弘済会とやま『教育振興事業のご案内』を作成しましたのでお届けします。まずは手に取ってご覧いただき、その後お手元に置いてご活用いただければ幸いです。

さて、本年度から新しくなった表紙について説明します。表紙に描かれているイラスト画は、小学校、中学校、高等学校へと夢や希望を追い求めて、健やかに成長していく子どもたちの様子を表しています。

子どもはどの子も等しく、ぎゅっと手を握りしめて生まれてきます。そして、その握りしめられた手の中には、将来の夢や希望が抱かれています。手のひらを広げた瞬間にその夢や希望は見えなくなってしまうそうです。

子どもたちは先生や友だちと出会い、先生の教えのもと、友だちとの学びを大切にしながら、自ら目標をもって努力したり新しいことに果敢にチャレンジしたりすることで、自分が生まれたときに握りしめていたはずの夢や希望を追い求めていきます。才能や個性を伸ばしながら歩み続ける子どもたちの姿なのです。

また、柔らかな題字の弘済会とやまは、“ぬくもり”のある教育を子どもたちと共に創りあげておられる“とやま”の先生方に、少しでも弘済会の事業が役立つことができればありがたいという、私たち弘済会富山支部の想いを込めたものです。

夢ひろがる子どもたちのために、今後とも、教職員の皆さまに末永くご愛顧いただける事業を展開してまいりますので、変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



☆公益事業であります教育振興事業は、全教職員を対象に、「公募申請」「選考」「結果の公表」「成果の報告」の4つの過程を踏み事業を展開しています。

【協力】

イラスト画：浜井 理先生（富山県教職員）

題 字：青山拓也先生（富山県教職員）

令和4年4月吉日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部

選考について

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部

1 選考方法

- (1) 日教弘富山支部教育振興事業選考委員会の選考後、富山支部幹事会の議を経て支部長が対象団体(者)を決定します。
- (2) 結果は文書で各種団体(者)に連絡します。なお、選考の理由に関わる問い合わせには回答しません。

2 「経営改善助成」「課題研究助成」の選考基準

- (1) 現代の教育課題を適切に取り上げているか。
- (2) 教育課程上適切に位置付けられ、授業の改善に資するものとなっているか。
- (3) 園児・児童・生徒の主体的な変容・発達の姿が見られるか。
- (4) 理論と実践が一体となった研究であるか。
- (5) その研究内容は価値が高く、他の学校でも活用できるか。

3 「教育団体研究助成」「へき地学校教育支援事業」の選考基準

- (1) 事業の公益性・社会性 申請事業が、十分な公益性・社会性を有したものであるか。
- (2) 事業の適正性 申請事業が、助成の趣旨と合致しているか。
事業予算の設定が過大なものでないか。
- (3) 事業の必要性 課題、ニーズを的確に把握しているか。
- (4) 事業の実現性 申請事業の実施方法は適切で、実現可能な計画が立てられているか。

4 「教育研究大会助成」「教育助成」「現職研修助成」「文化振興助成」の留意事項

- (1) 各事業の助成要件を確認の上、申請してください。
- (2) 申請者(共同者を含む)の人件費、飲食費は助成しません。

5 「奨学事業」の留意事項

- (1) 奨学生募集要項(貸与・給付)を確認の上応募してください。
- (2) 奨学金貸与希望者に対しては、当支部にて説明の上直接必要書類を渡します。
本人又は保護者の方がお越しください。

富山支部ホームページ

◎『申請書』や『報告書』は、公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部のホームページからダウンロードができます。

<https://www.nikkyoko.or.jp/company/toyama>



①クリック

公益財団法人 日本教育公務員弘済会 富山支部

> 日教弘 HOME

支部のご紹介 教育振興事業 福祉事業 申請書 その他ダウンロード トピックス お問い合わせ

日本教育公務員弘済会 富山支部

トピックス

- 2021年09月21日 ☎ モチベーションアップ講座2021
- 2021年08月06日 ☎ 「グラウジーズ観戦招待事業」
- 2021年06月18日 ☎ 富山の魅力発見講座
- 2021年05月01日 (公財)日本教育公務員弘済会富山支部事業紹介ビデオ完成

申請書・その他ダウンロード

- > 青少年の健全な育成に資する日教弘の教育振興事業
- > 教育文化事業
- > 奨学事業
- > 教育研究助成事業

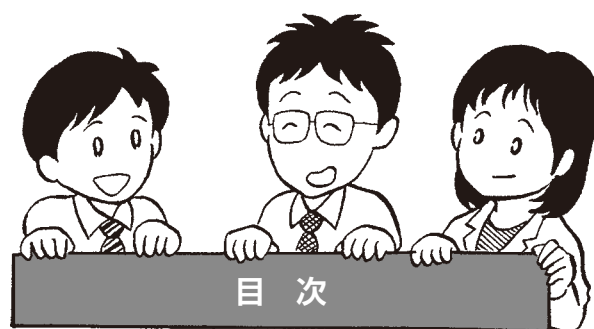
申請書・その他ダウンロード

- ②必要な申請書等をクリック
- 2022年04月01日 📄 1-1 教育団体研究助成 (要項)
 - 2022年04月01日 📄 1-2 教育団体研究助成 (申請書)
 - 2022年04月01日 📄 1-3 教育団体研究助成 (報告書)
 - 2022年04月01日 📄 2-1 教育研究大会助成 (要項)

送付先

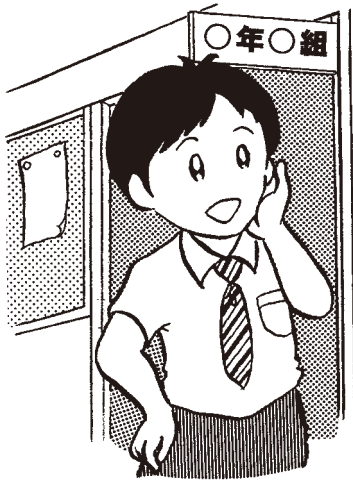
◎『申請書』や『報告書』等は、下記に送付してください。

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館内
公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部宛 TEL (076) 432-6562



頁	
PART 1	教育研究助成事業
1	はじめに
2	選考について
3	富山支部ホームページ、送付先
7	令和4年度 教育団体研究助成要項
8	教育団体研究助成申請書 [様式]
9	教育団体研究助成申請書〈記入例〉
10	教育団体研究助成報告書 [様式]
11	教育団体研究助成報告書〈記入例〉
12	情報の窓 I 令和3年度 教育振興奨励助成贈呈式から
13	令和4年度 教育研究大会助成要項
14	教育研究大会助成申請書 [様式]
15	教育研究大会助成申請書〈記入例〉
16	教育研究大会助成報告書 [様式]
17	教育研究大会助成報告書〈記入例〉
18・19	令和4年度 経営改善助成要項
20	経営改善助成(学校部門・個人部門)申請書 [様式]
21	経営改善助成(学校部門・個人部門)申請書〈記入例〉
22	経営改善助成申込書 [様式]
23	経営改善助成申込書〈記入例〉
24	経営改善助成(論文)の書き方
25	経営改善助成 ア:要旨様式例①
26	経営改善助成 イ:本文様式例①
27～31	経営改善助成論文例
33	令和4年度 課題研究助成要項
34	課題研究助成申請書 [様式]
35	課題研究助成申請書〈記入例〉
36	課題研究助成申請書・報告書 [様式]
37	課題研究助成申請書・報告書〈記入例〉
38	課題研究助成報告書 [様式]
39	課題研究助成報告書〈記入例〉

40	課題研究助成報告書例 * 『令和3年度 実践報告集』から
41	令和4年度 教育助成要項
42	教育助成申請書 [様式]
43	教育助成申請書〈記入例〉
44	教育助成報告書 [様式]
45	教育助成報告書〈記入例〉
46	教育助成報告書例
47	令和4年度 現職研修助成要項
48	現職研修助成申請書 [様式]
49	現職研修助成申請書〈記入例〉
50	現職研修助成報告書 [様式]
51	現職研修助成報告書〈記入例〉
52	情報の窓Ⅱ [文化講演会] 令和3年度「富山の魅力発見講座Ⅳ」に参加して
PART 2	教育文化事業
53	令和4年度 文化振興助成要項
54	文化振興助成申請書 [様式]
55	文化振興助成申請書〈記入例〉
56	文化振興助成報告書 [様式]
57	文化振興助成報告書〈記入例〉
58	令和4年度 文化講演会「富山の魅力発見講座Ⅴ」要項
59	令和4年度 へき地学校教育支援事業要項
60	へき地学校教育支援事業申請書 [様式]
61	へき地学校教育支援事業申請書〈記入例〉
62	へき地学校教育支援事業報告書 [様式]
63	へき地学校教育支援事業報告書〈記入例〉
PART 3	奨学事業
65	令和4年度 貸与奨学生募集要項
66	貸与奨学金申込書
67	令和4年度 給付奨学生募集要項
68	給付奨学生申請書 [様式 1]
69	高等学校等給付奨学生推薦書 (学校用) [様式 2]
70	給付奨学生成果報告書 [様式 3]
71	令和4年度 大学給付奨学生 (予約型) 募集要項
72・73	令和4年度 大学給付奨学生 (予約型) 申請書
74	令和4年度 大学給付奨学生 (予約型) 推薦書
[福祉事業]	
75	令和4年度 教弘保険加入者特典のいろいろ
76	受給申請書



PART 1

教育研究助成事業

✿ 教育団体研究助成	7
✿ 教育研究大会助成	13
✿ 経営改善助成	18
✿ 課題研究助成	33
✿ 教育助成	41
✿ 現職研修助成	47

様式は <https://www.nikkyoko.or.jp/company/toyama> からダウンロードできます。

令和4年度 教育団体研究助成要項

教育団体研究助成は、教育の振興に寄与すると認められる団体の特に有益な研究・活動に対し助成を行う事業です。

1. 主催 公益財団法人 日本教育公務員弘済会 富山支部

2. 助成要件

(1) 助成の趣旨

富山県の園長会、校長会、教頭会、教育研究会等の団体が令和4年度に行う、有益な研究・活動を対象とした助成を通して学校教育の向上発展に寄与します。

(2) 応募対象

教育関係団体及び教育研究団体

① 応募者が計画の推進に責任を持ち、助成金の管理及び報告を行うことを条件とします。

② 1年間(4月1日から3月31日)で完了する研究・活動等とします。

(3) 応募期間 令和4年4月1日(金)～令和4年5月31日(火)

(4) スケジュール

令和4年6月下旬 教育振興事業選考委員会で選考を行います。

7月上旬 採否の結果を通知します。

10月下旬 贈呈(表彰)式を開催します。

3. 申請について

(1) 「教育団体研究助成申請書」と「団体の会則」及び「役員名簿」、「前年度の会計報告書」等の資料を添えて申請してください。

(2) 様式は弘済会富山支部ホームページからダウンロードしてください。

<https://www.nikkyoko.or.jp/company/toyama>

(3) 適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。

4. 選考基準について

2ページにある「選考について」の選考基準により、選考を行います。

5. 報告について

(1) 研究・活動等の終了後に経過・結果等に関する報告を提出してください。

(2) 領収書(コピー可)も必ず添付してください。尚、領収書は助成額以上となるようお願いします。

(3) 様式は弘済会富山支部ホームページからダウンロードしてください。また、成果資料等があれば添付してください。

6. 報告の提出日 令和5年2月28日(火)までに提出してください。

7. 送付先 〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館内
公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部宛 TEL(076)432-6562

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

申請者

〒

所在地

団体名

TEL () -

代表者

職 名

氏 名

職印

教育団体研究助成申請書

下記のような研究活動を実施するに当たり、その目的達成のため助成いただきたく、別紙計画資料を添えて申請いたします。

記

1. 活動趣旨

2. 組織概要

構成職種

構成人員

他団体との連携

3. 申請金額

4. 添付書類

[個人情報の取扱いについて]

- ・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部（以下当会という）は、適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。
- ・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

弘済会受付	合 議	決定支給額と支給期日

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

申請者

〒 930-△△△△

所在地 富山市〇〇町-△△

団体名

TEL (076) △△△ - △△△△

代表者

職 名 会長

氏 名 魚津 一郎

職印

教育団体研究助成申請書

下記のような研究活動を実施するに当たり、その目的達成のため助成いただきたく、別紙計画資料を添えて申請いたします。

記

1. 活動趣旨 富山県〇〇教育の振興及び研修……資質向上を図る。

2. 組織概要

構成職種 富山県小・中学校長

構成人員 △△△名

他団体との連携 富山県〇〇会、東海・北陸地区〇〇会

3. 申請金額 △△△円

4. 添付書類 ※総会資料、全体研修資料等（事業計画・収支予算が明記されているもの）
尚、現時点で未作成の場合は、前年度のものを提出してください。

[個人情報の取扱いについて]

- ・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部（以下当会という）は、適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。
- ・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

弘済会受付	合 議	決定支給額と支給期日

教育団体研究助成報告書

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

所在地

団体名

代表者 職 名

氏 名

職印

下記のとおり領収書を添えて報告します。

助 成 金 額	
研究活動の 概 要	
助 成 金 の 使 途 明 細	(計 円)

教育団体研究助成報告書

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

所在地 富山市〇〇町－△△

団体名 富山県小学校長会

代表者 職 名 会長

氏 名 魚津 一郎

職印

下記のとおり領収書を添えて報告します。

助成金額	△△△円
研究活動の概要	<p>1 研究主題 新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く、日本人の育成を目指す小学校教育の推進 —主体的・共同的に学び、心豊かに未来を生き抜く児童を育成する学校経営—</p> <p>2 研修内容と成果 別紙 「令和4年度研究紀要」参照</p>
助成金の使途明細	<p>・研究紀要の印刷製本費 △△△円</p> <p style="text-align: right;">(計 △△△円)</p>

〈添付書類〉 ・領収書（コピー可）別紙（A4用紙等）に貼付してください。

・成果資料「研究大会のまとめ」等

令和3年度 教育振興奨励助成贈呈式から
令和3年10月26日 会場：高志会館



弘済会富山支部 支部長 青木 正邦
〔式 辞〕



教育振興事業選考委員会 委員長 神川 康子 様
〔励ましのことば〕



富山県教育委員会 教育次長 坪池 宏 様
〔励ましのことば〕



南砺市立福光中部小学校 校長 棚田 賢也 様
〔お礼のことば〕



〔教育団体研究助成〕 贈呈



〔課題研究奨励賞〕 贈呈

令和4年度 教育研究大会助成要項

教育研究大会助成は、本県を会場とする教育にかかる全国大会及びこれに準ずる大会、また、文部科学省、県教委、市町村教委、幼・小・中・高校教育研究団体の指定による大会、並びにこれに準ずると認められる大会の開催に当たり、その内容と大会規模に応じて予算の範囲内で助成を行う事業です。

1. 主催 公益財団法人 日本教育公務員弘済会 富山支部

2. 助成要件

(1) 助成の趣旨

富山県の教育関係団体及び教育研究団体が令和4年度に行う、有益な研究大会を対象とした助成を通して学校教育の向上発展に寄与します。

(2) 応募対象

教育関係団体及び教育研究団体

① 応募者が計画の推進に責任を持ち、助成金の管理及び報告を行うことを条件とします。

② 1年間(4月1日～3月31日)で完了する研究・活動等とします。

(3) 応募期間 令和4年4月1日(金)～令和4年5月31日(火)

※教育振興事業選考委員会後に応募を希望される場合には、当会まで連絡をお願いします。

(4) スケジュール

令和4年6月下旬 教育振興事業選考委員会で選考を行います。

7月上旬 採否の結果を通知し助成します。

3. 申請について

(1) 「教育研究大会助成申請書」と「計画資料」を添えて申請してください。

(2) 様式は弘済会富山支部ホームページからダウンロードしてください。

<https://www.nikkyoko.or.jp/company/toyama>

(3) 適正に取得した個人情報等を当会の教育振興事業の運営のために利用します。

4. 選考基準について

2ページにある「選考について」の留意事項等により、選考を行います。

5. 報告について

(1) 大会の終了後に経過・結果等に関する報告を提出してください。

(2) 領収書(コピー可)も必ず添付してください。尚、領収書は助成額以上となるようお願いします。

(3) 様式は弘済会富山支部ホームページからダウンロードしてください。また、成果資料(「研究大会のまとめ」等)があれば添付してください。

6. 報告の提出日 大会終了後2か月以内に提出してください。

7. 送付先

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館内
公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部宛 TEL(076)432-6562

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

申請者 氏

所在地

団体名

TEL () -

代表者

職 名

氏 名

職印

教育研究大会助成申請書

下記のように研究大会を開催するに当たり、その目的達成のため助成いただきたく、別紙「計画資料」を添えて申請いたします。

記

1. 大会名
2. 開催期日
3. 主催者名
4. 後援者名
5. 参加者数 () 名 主催スタッフ () 名
6. 大会費用
7. 計画資料 (別紙)

[個人情報の取扱いについて]

- ・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部 (以下当会という) は、適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。
- ・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

弘済会受付	合 議	決定支給額と支給期日

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

申請者 〒 936-△△△△

所在地 滑川市〇〇町△-△

団体名 〇〇教育〇〇協議会(〇〇小学校内)

※諸団体で学校に事務局等がある場合は
学校名も記入してください。

Tel (076) △△△ - △△△△

代表者

職 名 会長

氏 名 朝日 一郎

職印

※団体名の代表職名を記入(例：会長、実行委員長等)

※団体名が学校の場合は、校長としてください。

教育研究大会助成申請書

下記のように研究大会を開催するに当たり、その目的達成のため助成いただきたく、別紙「計画資料」を添えて申請いたします。

記

1. 大会名 第△△回〇〇教育〇〇研究大会

2. 開催期日 △△年△年△日(木)～△日(金)

3. 主催者名 〇〇教育〇〇協議会

4. 後援者名 〇〇〇〇会

5. 参加者数 (△△△) 名 主催スタッフ (△△) 名

6. 大会費用 △△△円 ※前年度実施の場合、参加者数がわかる資料等を添付してください。

7. 計画資料(別紙)

※「大会案内」も添えてください。申請時に「大会案内」が出来上がっていない場合は、作成後に提出してください。

[個人情報の取扱いについて]

- ・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部(以下当会という)は、適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。
- ・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

弘済会受付	合 議	決定支給額と支給期日

教育研究大会助成報告書

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

所在地

団体名

代表者 職 名

氏 名

職印

下記のとおり領収書を添えて報告します。

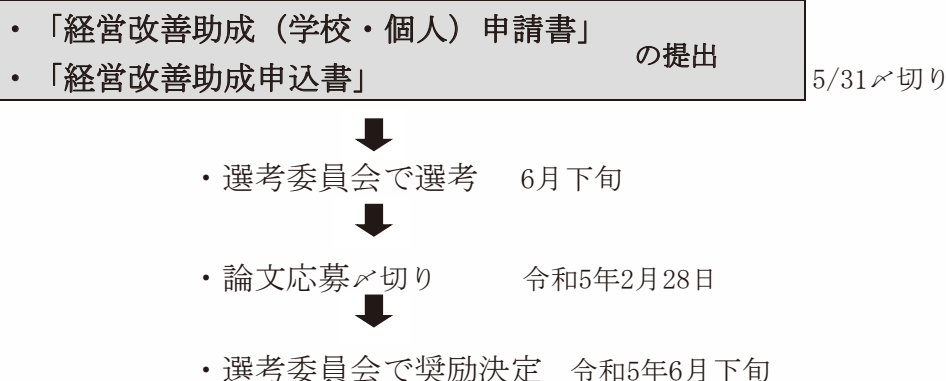
大 会 名	
大会開催日	
助 成 金 額	
研究実践の 概 要	
助 成 金 の 使 途 明 細	(計 円)

令和4年度 経営改善助成要項

研究テーマをもって経営上の工夫・改善に取り組んでいる学校や個人(学年、教科、部会等のグループを含む)に対して助成を行うことを通して学校教育の向上発展に寄与します。

応募概要

1. 応募の流れ



2. 応募部門

① 学校部門[学校、教育機関等の教育研究団体]

☆所属長(校長等)を対象

(内容)

学校経営等(特色ある学校づくり、教職員の資質向上、地域の教育資源の活用等)

- 【例】 「地域に愛着と誇りをもち、主体的に行動する児童の育成」(小学校)
「個に応じた支援体制の構築」(中学校)
「人間関係力をもとにした確かな学力と進路意識の向上を目指して」(高校)
「働く力を高める地域貢献活動の実践」(特別支援学校)

『日教弘教育賞教育研究集録より』

② 個人部門[学校や教育機関等に勤務する個人(研究グループを含む)]

☆所属長以外の教職員を対象 ※個人部門の申請には所属長の推薦が必要です。

(内容)

個人(グループ)研究等(学年・学級経営、教材開発、生徒指導、特別支援教育等)

- 【例】 「児童の意欲を引き出す体育の授業を考える」(小学校)
「いじめを生まない学級づくり」(中学校)
「やってみたい」を形にして、生徒の主体的な学びを引き出す指導(高校)
「知的障害児と指導者が共に参加できる余暇活動の在り方」(特別支援学校)
「アクションカードを使った、教職員救急救命研修」(養護教諭)

『日教弘教育賞教育研究集録より』

3. 応募方法

- ①各校につき、学校部門1件、個人部門(研究グループ含む)1件、合わせて2件まで応募できます。
- ②5月31日必着で「経営改善助成申請書」と「経営改善助成申込書」を添付して応募してください。
- ③教育振興事業選考委員会で助成を決定します。決定校(者)は、令和5年2月28日(火)までに論文(要旨1枚、本文A4・4枚8,000字余り)を提出してください。

4. 選考基準 2ページにある「選考について」の選考基準により、選考を行います。

5. 奨励

【応募】 学校部門(5万円) 個人部門(3万円)

【表彰】 学校部門と個人部門の区別なく奨励



最優秀賞(30万円)……………1編
優秀賞(20万円)……………2編
優良賞(10万円)……………3編
個人奨励賞(3万円)* ………5編程度

*個人部門の応募論文の中で、最優秀、優秀、優良賞以外で優れている論文を奨励します。

6. その他 ●奨励金は10月下旬の贈呈式で贈ります。また、優秀な論文は2月発刊の『実践報告集』に掲載します。
- 適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。

送付先(問い合わせ先)

〒930-0018 富山市千歳町 1-5-1 富山県教育記念館内
公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部
TEL:076-432-6562 FAX:076-432-1766
E-mail:toyama@nikkyoko.or.jp
URL:<https://www.nikkyoko.or.jp/company/toyama>

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

申請者

所属名

職 名

氏 名

職印 (印)

経営改善助成（学校部門・個人部門）申請書

下記のような研究テーマをもって経営上の工夫・改善に取り組みたく、「経営改善助成申込書」を添えて申請します。

記

研究テーマ

--

〈個人部門〉のみ記入

上記の申請者を、経営改善助成者に推薦いたします。

所属名

所属長

職印

[個人情報の取扱いについて]

- ・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部（以下当会という）は、適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。
- ・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

弘済会受付	合 議	決定支給額と支給期日

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

申請者

所属名 砺波市立〇〇中学校

職 名 教諭（校長）

氏 名 上市 二郎

職印 (印)

※ 「学校部門」は職印、「個人部門」は私印をお願いします。

※いずれかを○で囲んでください。

経営改善助成（学校部門・個人部門）申請書

下記のような研究テーマをもって経営上の工夫・改善に取り組みたく、「経営改善助成申込書」を添えて申請します。

記

研究テーマ

<p><u>学年のよさを発揮し、共に高め合う学年づくり</u></p> <p><u>-〇〇を通して -</u></p>

※ 「学校の実態を踏まえ、明日の教育を考える」という立場から応募者が具体的な研究テーマを決めて論文をまとめることとします。

〈個人部門〉のみ記入

上記の申請者を、経営改善助成者に推薦いたします。

※ 「個人部門」の申請には所属長の推薦が必要です。

所属名 砺波市立〇〇中学校

所属長 校長 舟橋 一郎

職印

[個人情報の取扱いについて]

- ・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部（以下当会という）は、適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。
- ・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

弘済会受付	合 議	決定支給額と支給期日

経営改善助成申込書

年 月 日

申請者 (申請部門を○で囲んでください)	学校部門	(団体名)
		(代表者名)
	個人部門	(所属名)
		(個人名又はグループ名)
※グループの場合は代表者名 (メンバー 名)		
研究テーマ		
研究テーマ設定の理由		
テーマに基づく研究実践の内容		
研究計画		

経営改善助成申込書

年 月 日

申請者 <small>(申請部門を○で囲んでください)</small>	学校部門	(団体名) (代表者名)
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> 個人部門 </div>	(所属名) 砺波市立〇〇中学校
		(個人名又はグループ名) 上市 二郎
		※グループの場合は代表者名 (メンバー 名)
研究テーマ	学年のよさを発揮し、共に高め合う学年づくり —〇〇を通して— ※「経営改善申請書」の研究テーマと一致させる。	
研究テーマ設定の理由	・学年主任としてリーダーシップを発揮し、可能性を広げようとする…… ※理由・問題意識等	
テーマに基づく研究実践の内容	・課題を明確にする…… ・教師の連携…… ・学年経営の改善…… ※仮説設定及び本研究で取り組もうとしていること。	
研究計画	※助成の対象にならないもの ・公的機関、研究会、市販の図書・教育誌等に既に発表した内容のもの。 ・他団体に応募（推薦含む）ずみの内容のもの。 ・本助成応募後、選考中に発表したもの及び他団体に応募（推薦含む）した内容のもの。	

経営改善助成(論文)の書き方

1 論文の提出締切日 令和5年2月28日(火)

2 論文の作成について

論文の作成は、原則として一太郎又はワード等を使用してください。

指定の原稿用紙はありません。下記のとおり設定の上、論文等を提出してください。

ア 要旨(別紙ア参照) 本部「日教弘教育賞」様式に準じます。

様式は48字×43行×1段組×A4判ページ横書き(フォントサイズ10.5)とします。

執筆者の氏名・所属学校・役職・研究主題・研究の要旨等をまとめてください。

イ 本文(別紙イ参照) 本部「日教弘教育賞」様式に準じます。

様式は24字×43行×2段組×A4判4ページ横書き(フォントサイズ10.5)とします。

図表・写真等の資料を掲載する場合はA4判1ページ程度以内の分量に収めてください。

※ 要旨を必ず付けてください。

(ア・イをセットにし、ホチキス止めしたものを8部提出ください)

3 論文の書き方

(1) 論文は横書きとします。

(2) 文字は常用漢字、新かなづかいを使用してください。

(3) 本文1ページ目の6行分(段組み左右)を用いて下記のとおり印字してください。

※学校名・団体名・グループ名及び役職・氏名の欄には下記のとおりお書きください。

①学校の場合は、学校名及び校長名

②グループの場合は、グループ名及びその代表者役職・氏名

(4) 小見出しや文章の書き出しの前は、ひとマスあけてください。

(レイアウト等については『実践報告集』を参考にしてください。)

(5) 写真・図表等の留意点

掲載する写真・図表は、『実践報告集』作成時に図表等が見にくくならないようにご配慮下さい。

論文内に貼り付け、またはデジタルカメラで取り込んで完成したものにしてください。

また、審査終了後、電子データにて論文の提出をお願いする場合があります。

4 論文提出後のことについて

(1) 優秀論文は印刷製本のうえ、助成記録として保存します。

(2) 助成校・助成者に一部ずつ贈呈します。

(3) 各学校・区市町村教委・関係機関へ贈呈配布します。

1. 所属校

富山県南砺市立福光中部小学校

2. 役職

校長

3. 氏名

棚田 賢也

4. 研究主題

主体的に学ぶ若手教員の育成を目指して

5. 研究副題

メンター方式を導入した若手教員研修を核として

6. 研究の要旨

(1) 主題設定の理由

若手教員の育成は喫緊の課題であるが、学校が抱える課題はより複雑化・困難化しており、若手教員が自己研鑽に取り組み、スキルアップを図るための意欲を高めることが重要である。

そのため、メンター方式を導入し、メンターチームを編制して若手教員研修(以下若手研という)を実施する。研修内容については、無理のない時間設定の中、若手教員が協議して決定する。また、主体的な学びとなるよう、管理職やベテラン教員がメンターチームを支援していくことで、若手教員は研修意欲を高め、多様な専門性を身に付けるものとする。更に、若手教員の学びに校内の全教員が関わることで、若手研を核として、OJTを充実させ、教員同士の学び合いが活性化するものとする。

(2) 研究の視点

- ①メンター方式を導入した若手研の実施
- ②授業の互見システムの確立
- ③校務支援システムの活用

(3) 具体的な取組

- ①若手研のスタート、研修の中で大切にしたこと
- ②校務支援システムを活用したアドバイス
- ③授業研究、仲間の授業・先輩の授業

(4) 成果と課題

①成果

- ・メンターチームは、自分たちの必要感に応じた研修を取り入れ、主体的に研修に取り組んだ。
- ・メンター方式導入により、若手研の充実に加え、メンター自身の指導力や若手を育成しようとする意識の高揚につながった。
- ・授業の互見を若手研の中心に据えたことで、メンティは多くの授業を参観でき、ベテラン教員等と授業について対話できた。加えて校内教員を講師としたことで、OJTの意識が全体的に高まった。
- ・若手研自体はその時間を20分間と限定したことで、無理なく継続できた。

②課題

- ・1時間安心して教室をあけられるシステムの構築が必要である。
- ・先輩の授業の参観や、授業について対話することのよさを更に実感させる工夫が必要である。

【主題】主体的に学ぶ若手教員の育成を目指して

【副題】メンター方式を導入した若手教員研修を核として

【学校・団体名】富山県南砺市立福光中部小学校

【役職名・氏名】校長 棚田 賢也

1 主題設定の理由

本校は児童数約 310 名、学級数は各学年 2 学級に 3 つの特別支援学級を加え、全部で 15 学級の中規模の学校である。教諭（再任用を含まない）、養護教諭、栄養教諭計 17 名のうち、20 代、50 代がそれぞれ 6 名で、20 代は全て 3 年次以下である。また、50 代のうち半数が来年度までに退職と、教育活動の円滑な運営を考えると、若手教員の育成は喫緊の課題である。ただ、学校が抱える課題はより複雑化・困難化しており、まずは、若手教員が自己研鑽に取り組み、スキルアップを図るための意欲を高めることが重要と考える。

そのためには、校内研修においても主体的に学ぶことを保障し、その学びを支援するシステムが必要ではないかと考えた。具体的には、メンター方式を導入し、メンターチームを編制して若手教員研修（以下若手研という）を実施する。メンター方式とは、経験豊かな先輩（メンター）が双方向の対話を通じて、後輩（メンティ）のキャリア形成上の課題解決や悩みの解消を援助し、メンティの成長をサポートする役割を果たすものである。若手研の研修内容については、無理のない時間設定の中、若手教員が協議して決定する。また、管理職やベテラン教員、中堅教員が、主体的な学びとなるよう、メンターチームを支援していくことで、若手教員は研修意欲を高め、多様な専門性を身に付けていくものとする。さらに、若手教員の学びに校内の全教員が関わることで、若手研を核として、OJT を充実させることができ、様々な場面で教員同士の学び合いが活性化するものとする。

富山県教育委員会では、毎年、授業実践に優れた小・中学校の現職教員を「授業の達人」として委嘱しているが、本校にはその「授業の達人」の経験者が 3 名在籍するなど、恵まれた環境を最大限に生かして主体的に学ぶ若手教員の育成に取り組みたい。

2 研究の視点

(1) メンター方式を導入した若手研の実施

本研究におけるメンター方式の導入は、若手教員の

指導力向上等の自己実現、及び中堅教員のミドルリーダーとしての意識の高揚をねらいとしたものである。学校運営上、このメンターチームを独立した組織とするために、メンターには 8 年次で学年主任も務める J 教諭を充てた。研修の企画及び運営は全てメンターチームが行うこととし、主体性を大切にしたい。6 名のメンティは次のとおりである。

- ・3 年次（H 教諭、O 教諭、I 養護教諭）
- ・2 年次（N 教諭） ・初任（M 教諭、S 教諭）

(2) 授業の互見システムの確立

若手教員の授業力向上には、授業の参観や参観した授業についての対話が何よりも重要であるとする。そのため、若手教員には、ベテラン教員や中堅教員の授業の参観を奨励した。その際、参観は 10 分程度とし、疑問や質問は放課後に対話を通して解決することとした。また、ベテラン教員や中堅教員には、面談等で授業公開や若手教員へのアドバイス依頼を依頼した。若手教員が時間を見つけて授業を参観し、授業を通してアドバイスを受けるシステムを確立したいと考えた。

(3) 校務支援システムの活用

校務支援システムを活用して、若手研等の充実を図る。具体的には、若手教員が若手研における学びをまとめ掲示板で発信することや、その発信内容を踏まえ、ベテラン教員や中堅教員等からのメール等によりアドバイスすること等を想定している。

3 具体的な取組

(1) 若手研のスタート

4 月 24 日に第 1 回の若手研を開催した。内容は、「今年度の計画」と「学級開き」で、今年度の計画については、メンターが昨年度の取組を参考に次ページの計画案を作成してきており、詳細な内容についての検討が主な協議事項となった。

協議では、ベテラン教員や中堅教員の授業を多く参観することとしたほか、子供の進捗や理解度が違う中での対応や子供に響くほめ方、生徒指導における子供からの聞き取り方や叱り方、通知表完成までの過程等、

若手教員らしい研修内容も取り入れることとなった。

＜若手教員研修 計画 (案)＞

- 1 ねらい 6年次までの若手教員の実践的指導力や問題解決力等の向上を図る。
- 2 日程 令和2年4月24日～令和3年3月9日
毎月第2、4火曜日 (全18回)
16:00～16:20
- 3 内容 4月：今年度の計画、学級開き
5月：学級経営、成績処理
6月：生徒指導、情報交換
7月：実技指導
9～2月：授業の参観
3月：1年間の振り返り

また、「学級開き」については、4月13日から臨時休業となったため、学校が再開された時のことを考えて取り入れたものである。本校スクール・カウンセラー作成の資料を基にメンターが話をした後、学級開きで意識していることについて話し合った。

(2) 不安や疑問を明らかにして

2回目は5月12日に行った。研修題は「通知表完成までにしておくこと(学習評価、行動の記録)」である。この日の講師は研究主任とメンターが務め、メンティは不安や疑問を明らかにして参加した。振り返りでは、次のように記載している。

- ・日頃の評価の積み重ねが大切。子供の日頃の行動のメモが必要である。(O教諭)
- ・日頃の積み重ねが大切。他の先生の取組から自分もやってみたいことが得られた。(H教諭)
- ・記録を計画的にとることが重要である。(N教諭)
- ・授業だけでなく、普段の生活もよく見てメモに残すことが大事。ほめほめタイムも活用可。評価規準を理解することが重要である。(S教諭)
- ・付箋を活用するなどこまめにメモ、どんどん書いて残す。周りの先生からの言葉もメモ。どの授業で評価するか事前に計画する。(M教諭)

2、3年次の教員にとっては、通知表の作成は経験済みのことであるが、初任者と同じ土俵で協議したことで、自分のこれまでの取組を振り返ることができ、有意義な時間となったようである。

3回目は6月16日に行った。学校再開等の関係で1か月の間隔があいた。研修題は「生徒指導について」

で、講師は教頭が務めた。この日もメンティは次のように、職、年次に応じた不安や疑問を明らかにして参加した。

- ・自分の思いを上手に表現できずに困っている子供への対応 (O教諭)
- ・子供の心のほぐし方 (H教諭)
- ・問題発生時の情報の聞き取り方 (I養護教諭)
- ・話を聞いていない子供への対応 (N教諭)
- ・休み時間におけるトラブルへの対応 (M教諭)

4回目は6月24日に行った。研修題は「1か月子供と過ごしてみよう」である。講師はメンターが務め、不安・疑問・試してみたこと・聞きたいこと・やってよかったこと等について協議した。初任者にとっては、初めて子供と向き合った1か月であったため、高い問題意識をもって参加した。

＜不安・疑問・試してみたこと・聞きたいこと・やってよかったこと等＞(事前)

- ・授業が難しい。どうすれば定着するのか。喧嘩があったり子供の思いが様々であったり子供と向き合うのは大変だと思った。(S教諭)
- ・ほめて動かすことが難しい。(M教諭)



＜感じたこと、学んだこと＞(事後)

- ・ルールを前もって伝えることで「守ろう、聞こう」とする子供が増える。できていない子供にはそっと寄り添い、声を掛けたい。(S教諭)
- ・保健室に行くときは担任に伝えさせる。また、体育の時にはルールをしっかり作りたい。「ほめる→教え合う→ミニ先生を作る」のサイクルで、子供同士で注意し合えるようにしたい。(M教諭)

上記のように、初任の2名とも研修前に抱いていた不安や疑問に対して、初任者なりに今後の手立てを明確にしていることが分かる。この後、実際にやってみて思い通りにいかないこともあると思うが、若手教員にとっては、研修の中で「次はこのようにやってみよう」と思えることが大切なのだと思う。このような意味においてメンターチームが自分の悩みや困ったことも素直に出せる雰囲気であることは大切なことである。

また、I養護教諭から「保健室に毎日来る子供がいる。担任と相談し、担任に断ってから来るなどの約束事が必要ではないか」と話があった。上記、M教諭の

下線部の言葉はそれを受けたもので、I 養護教諭にとっても悩みの解決につながる貴重な時間となった。

(3) 校務支援システムによるアドバイス

6月の学校再開後、私は授業や子供たちの様子を観察するために、若手教員の学級を中心に、積極的に授業観察に取り組んだ。その際、校務支援システムを活用して若手教員にアドバイスを送信した。次のように、授業における子供との接し方や発問、指示等で、優れている、努力していると感じたことを中心に、気を付けてほしいことがあれば1点だけ伝えることとした。

N先生、5限の国語の授業を見させていただきました。子供が真剣になっている姿はいいですね。子供の反応が全然違っていました。先生の発問と同時に「はい」と挙手、集中している証拠です。

「水中ブルドーザーみたいないせえび」という言葉について、そのイメージを予想させ、その上でいせえびのビデオを見せられたのがよかったですと思います。子供が「案外大きかったね」と話すなど、ブルドーザーという言葉といせえびがうまく結び付いているようでした。国語の時間は言葉のイメージを膨らませることが大切ですから。

先生が工夫したことは、“当たれば”子供たちはしっかりと返してくれます。当たらないこともたくさんありますけどね。(私の経験上です)

子供の真剣な姿に心が洗われました。ありがとうございました。

特に、初任の2名と2年次のN教諭には、8月上旬の1学期終了までに6~7回アドバイスを送信した。N教諭については、アドバイスを送り始めてから、授業への取組方に変容が見られ、学級の子供も集中して授業に臨むようになった。

(4) いよいよ授業研究

7月以降の研修はほとんどが授業研究となる。子供たちにとって分かる授業をしたいというメンターチームの強い思いが形になったものである。「子供が自分の考えをもち、よりよくしていくための手立て」を研修題として取り



若手研の様子

組んだ。最初は、16年次研の一環で6学年主任のA教諭が算数科の授業を提案した。放課後には、若手研として事後研を行った。次

は各自の振り返りである。

- 学びの足跡を活用し既習事項を生かす。(O教諭)
- 問題解決の際、線分図を大切にすることを一貫して指導する。(H教諭)
- 授業に当たっては、一人一人の学習状況を把握する。(N教諭)
- 学習問題との出会いにおいては、スモールステップの手立てを講じる。(S教諭)
- 文章問題では、まず、問題場面のイメージを膨らませる。(M教諭)

それぞれが経験に応じた学びを記載している。同じ研修題で、同じ授業を参観しても、一人一人の問題意識が違うため、学びも違ってくる。特に若いうちは、研修の中で自分の学びを明らかにすることが大切であり、このような機会を多くもつことで若手教員の成長につながるものと考え。なお、A教諭は、この後の若手研にアドバイザーとして参加することに加え、若手教員の授業づくりの相談に乗ったり、学習指導案作成時にアドバイスしたりした。

10月からはメンティによる授業が続いた。10月には、初任の2名が初任研で算数科の授業を公開した。11月



S教諭の研究授業

には、3年次の2名が小学校教育課程研究集会で外国語科、外国語活動の授業を、2年次N教諭が2年次研で国語科の授業を公開した。

事後研には、初任者指導教員やA教諭、メンターが講師を務めた。

1月には、ベテラン教員や中堅教員の授業を参観して授業研究を行った。ベテラン教員や中堅教員は、次のように、若手教員のために快く授業を公開した。

- ① 1年算数科 : K教諭
- ② 2年道徳科 : T教諭
- ③ 5年音楽科 : C教諭
- ④ 3年理科 : H教諭
- ⑤ 3年国語科 : F教諭 (K及びF教諭が授業の達人)

メンティにはベテラン教員や中堅教員の授業から多くのことを学びたいとの思いがあり、事後研も行うこととなっていたことから1時間参観することがほとんどであった。事後研には、授業者のベテラン教員等が参加しており、授業の意図を聞いたり質問したりして研修を深められたようである。

4 成果と課題

若手教員は3月まで、精力的に授業の参観及び授業研究に取り組んだ。2月上旬には、初任の2名が道徳科の授業を公開し、成長した姿を見せてくれた。

本研究の成果と課題を明確にするため、2月上旬にはメンターチームの一人一人にアンケートを行った。その結果は次のとおりである。

1 若手研の満足度

- ①十分に満足 5名 ②ほぼ満足 2名
③やや不満足 0名 ④不満足 0名

<理由>

- ・ベテラン教員等の授業をたくさん参観し、授業者を交えた事後研を行えた。
- ・学習の際のポイントや細かな仕掛け等が学べた。
- ・研修を20分程度としたことで効率よく行えた。
- ・若手教員同士で授業について話すことは大変刺激になった。
- ・【メンター】若手教員と研修内容を話し合っただけで決めたことで、必要感のある研修となった。自身も先輩教員の授業を参観して指導技術を学べた。

2 特に有意義だった研修(2つ回答)

- ① ベテラン教員等の授業参観(6名が選択)
② 準備体操等の実技研(3名が選択)
③ 生徒指導(2名が選択)
④ 情報交換、学習評価(各1名が選択)

3 メンター方式について

- ①よかった 6名 ②少しよかった 1名
③あまりよくなかった 0名
④よくなかった 0名

<理由>

- ・自分たちに近い視点での意見を与えてもらった。
- ・授業のポイントや子供の様子等、若手で意見を共有した後、メンターによる総括があり、要点を確認したり新たな視点を得たりすることができた。
- ・些細なことでも気軽に質問、相談できた。
- ・若手教員とベテラン教員をつないでもらえた。
- ・研修の運営や日程の調整等、上手にリードしてもらえた。
- ・【メンター】研修を若手で進められるように、企画、進行等を任せたことで、事後研では授業の視点を示すなど、後輩を育てるという意識をもって参加できた。

(1) 成果

- ・メンター方式を導入し、若手研の企画・運営等、全てをメンターチームに任せたことで、若手教員は、自分たちの必要感に応じた研修を取り入れ、主体的に研修に取り組んだ。
- ・学校の中核を担う中堅教員をメンターに任命したことで、若手研の充実を図ることができただけでなく、メンター自身の指導力や若手を育成しようとする意識を高めることができた。
- ・授業の互見を中心に若手研を実施したことで、メンティは多くの授業を参観でき、ベテラン教員等と授業について対話することができた。加えて、若手研の講師を校内の教員に求めたことで、OJTの意識が全体的に高まり、教員相互の学び合いが充実した。
- ・若手研自体はその時間を20分間と限定したことで、無理なく継続できた。また、空き時間に進んで先輩教員の授業を参観するメンティの姿も見られるなど、時間を有効に使って研修しようとする意識が育った。20分間と時間は短くても、その中で受けた刺激が良質のものであれば、その後の研修意欲につながり、自ら求めて研修するようになると思う。
- ・現在の勤務状況では、授業についてアドバイスする時間の確保も容易ではなく、いつでも読めるメールでのアドバイスは若手教員の時間を奪うことなく、研修意欲に刺激を与えたと考える。

(2) 課題

- ・授業の参観時間については、授業の全てを参観したいというメンティの思いと、研修の効率化の両立は難しいと感じた。若手研の授業研究として参観する場合は、1時間安心して教室をあけられるシステムの構築が必要である。
- ・授業の互見は日常的に行われるところまで至っていない。先輩の授業の参観や、授業について先輩と対話することのよさを実感できないと他の業務に優先させようとの思いにつながらない。既に積極的に授業を参観しているメンティの思いを広めたり、若手教員とベテラン教員等でチーム・ティーチングを行う機会を設けたりするなどの工夫が必要である。
- ・校務支援システムの活用は、校長から若手教員等へのアドバイスに止まった。ICT活用の点からも推進すべきと思うが、その必要感が高まらなかったことが原因と考える。学びを発信することの意味やその効果について明らかにする必要がある。

令和4年度 課題研究助成要項

今日的課題を掲げて研究実践に取り組む30歳以下の教職員に対して助成を行う事業です。

1. 主催 公益財団法人 日本教育公務員弘済会 富山支部
2. 助成要件
 - (1) 助成の趣旨
 - ・今日的な課題を掲げて取り組む教育実践報告を対象とした助成を通して学校教育の向上発展に寄与します。
 - ・申請に対し、1名につき5千円を助成します。
 - (2) 応募対象
国・公・私立の幼・小・中・高・特別支援・高専等の各学校及び教育機関等並びにそこに勤務する30歳以下の教職員とします。尚、31歳以上の新規採用教職員は、3年次まで対象とします。
 - (3) 応募期間 令和4年4月1日(金)～令和4年5月31日(火)
 - ・「課題研究助成申請書」を提出してください。
 - ・「学校票」も提出願います。なお「学校票」はメールでも提出してください。
E-mail:toyama.2@nikkyoko.or.jp
 - ・様式は弘済会富山支部ホームページからダウンロードしてください。
URL:<https://www.nikkyoko.or.jp/company/toyama>
 - (4) スケジュール

令和4年6月下旬	教育振興事業選考委員会で応募選考を行います。
7月上旬	応募選考結果を通知し助成します。
11月30日	所定の様式で研究報告を提出してもらいます。
令和5年6月下旬	教育振興事業選考委員会で審査を行います。
8月下旬	受賞結果を通知します。
10月下旬	贈呈(表彰)式を開催します。
 - (5) 研究助成報告書提出
所定の様式(36・38頁参照)で令和4年11月30日(水)までに提出してください。
 - (6) その他
 - ・会報「教弘とやま」と「実践報告集」に助成者名を掲載いたします。また、優秀賞の報告書20編も「実践報告集」に掲載します。
 - ・適正に取得した個人情報をご当会の教育振興事業の運営のために利用します。
3. 審査 教育振興事業選考委員により審査します。
選考委員…学識経験者、富山県教育委員会並びに小・中学校、高校の各校長会に選考委員を依頼します。
4. 選考基準 2ページにある「選考について」の選考基準により、選考を行います。
5. 奨励 優秀賞 3万円(20件) 優良賞 1万円(30件)
6. 送付先 〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館内
公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部宛 TEL(076)432-6562

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

申請者

所属名

職 名 ()

第 () 学年

ふり がな
氏 名Ⓔ (歳)
(年次)

課題研究助成申請書

下記の課題をもって研究実践に取り組みたく、助成を申請いたします。

記

研究課題

上記申請者を課題研究助成者に推薦いたします。

所属名

所属長

職印

[個人情報の取扱いについて]

- ・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部（以下当会という）は、適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。
- ・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

弘済会受付	合 議	決定助成額と助成期日

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

申請者

所属名 富山県立〇〇高等学校

職名 (教 諭)

第 (2) 学年

※ 「ふりがな」を必ず記入してください。

氏名 ^{ふり がな} ^{たて やま} 立 山 ^{かおり} 香

Ⓜ (28 歳)
(年次)

※ 31歳以上の新規採用教職員で、3年次までの方は記入してください。

課題研究助成申請書

下記の課題をもって研究実践に取り組みたく、助成を申請いたします。

記

研究課題

生徒一人一人のよさを引き出す授業の工夫

※ 「研究課題」はできるだけ簡潔にお願いします。

上記申請者を課題研究助成者に推薦いたします。

所属名 富山県立〇〇高等学校

所属長 校長 富山 一郎

職印

[個人情報の取扱いについて]

- ・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部（以下当会という）は、適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。
- ・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

弘済会受付	合 議	決定助成額と助成期日

年 月 日

課題研究助成申請書・報告書(学校票)

[記入者] 職名・氏名

番号	所属名	職名	氏名	研究課題
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
9				
10				

『学校票』は、年2回メールで提出(HPからダウンロードしたExcelシートに入力したデータ)願います。その後、印刷したのも、個々の申請書、報告書とあわせて、各校1枚提出してください。

- 1回目「課題研究助成申請書」の提出時
- 2回目「課題研究助成報告書」の提出時 ※変更があれば修正して

【提出先 E-mail】 toyama.2@nikkyoko.or.jp 専任幹事 武島宛 ※シート・メールのタイトルは、『〇〇市・△△中・課題研口名』にしてください。

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

課題研究助成申請書・報告書(学校票)

年 月 日

[記入者] 職名・氏名

番号	所属名 14ポイント	職名 14ポイント	氏名 14ポイント	研究課題 14ポイント
1	氷見市立〇〇小学校	教諭	立山 亮介 <small>なつやま りょうすけ</small>	主体的に学ぶ子供の育成 ※ 氏名の確認のため ふりがなを入れてください。
2	同上	教諭	〇〇〇〇	児童一人一人のよさを生かす
3	※ 連絡をとる場合が ありますので、記入をお 願います。	養護教諭	〇〇〇	児童が健康に関心をもつ保健室経営
4				
5				※ 申請時は、できるだけ広いテーマで提出 すると取り組みやすいと思われれます。
6				
7				※ 申請時と研究課題の内容を変更した場合、 報告時に修正して提出してください。な お、確認のため変更がなくても再度提出願 います。
8				
9				
10				

※ 姓と名の間は半角
開けてください。

※ 10名以上の場合は、
行を追加して提出してくだ
さい。

『学校票』は、年2回メールで提出(HPからダウンロードしたExcelシートに入力したデータ)願います。
その後、印刷したのもでも、個々の申請書、報告書とあわせて、各校1枚提出してください。

- 1回目「課題研究助成申請書」の提出時
 - 2回目「課題研究助成報告書」の提出時
- ※変更があれば修正して

【提出先 E-mail】 toyama.2@nikkyoko.or.jp 専任幹事 武島宛 ※シート・メールのタイトルは、『〇〇市・△△中・課題研〇名』にしてください。

課題研究助成報告書

(研究課題)

1 課題設定の理由

2 研究実践

3 研究の成果

4 今後の課題

課題研究助成報告書

A4判1枚（余白は上20mm, 下25mm, 左右20mm）
44字（MS明朝 10.5P）

(研究課題)	(MSゴシック14P) <u>枠で囲む</u>	3 行
学校名・学年・職・氏名（MS明朝 10.5P）		

- 1 課題設定の理由（MSゴシック10.5P）
（本文はMS明朝 10.5P 数字は半角 アルファベットは半角[A]）

- ・実態等

↓ 空けない

- 2 研究実践（MSゴシック10.5P）
（本文はMS明朝 10.5P 数字は半角 アルファベットは半角[A]）

37
行

*図表・写真等を掲載する場合もこの1枚に収める。
*文字数、行数の多少の増減は可。

↓ 空けない

- 3 研究の成果（MSゴシック10.5P）
（本文はMS明朝 10.5P 数字は半角 アルファベットは半角[A]）

- ・解明されたこと

↓ 空けない

- 4 今後の課題（ゴシック 10.5P）
（本文はMS明朝 10.5P 数字は半角 アルファベットは半角[A]）

- ・残された問題点

書く楽しみを実感できる国語科「書くこと」の授業づくり

～書く意欲を高め、相手に分かりやすく伝える文章を書くことの指導～

富山市立豊田小学校 教諭 奥 沢 綾 香

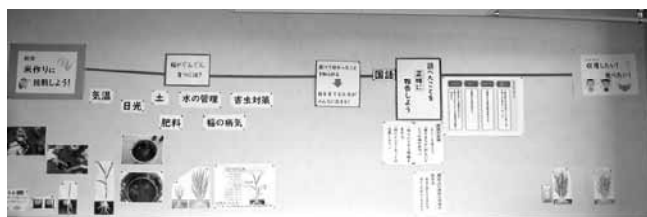
1 課題設定の理由

本学級には、文章を書くことに苦手意識をもつ子供が多い。書くテーマや内容をはっきりと自覚しておらず、「何を書けばよいか分からない。分からないから書きたくない」という負のスパイラルに陥っている。また、書くことを苦手としていない子供でも、相手に伝わるように意識して書いている子供は少ない。書いた文章を読み直すこともなく、自分が読んで分かればよいという意識をもっているのではないかと思われた。一人一人が伝えたいことをもち、相手を意識した伝わりやすい文章を書けるようにするため、本課題を設定した。

2 研究実践

(1) 書く意欲を高める単元構想

総合的な学習の時間「米づくりに挑戦しよう」では、バケツ稲を育て自分たちで収穫し、食べるというゴールを設けた。また、稲がよく育つようにするためにはどのような工夫が必要か、調べる目的をはっきりとさせることで、子供たちは意欲的に調べメモを取った。これらの活動を国語科の学習に活かすことで、書く活度にも意欲的に取り組むことができると考えた。また、同じ学習に取り組む5年生の仲間に伝えるために、調べたことを報告する文章を書くことを提案し、総合的な学習の時間と、国語科の双方の学習の流れが分かるように教室に掲示をした。調べ学習では、調べること、分かったこと、出典を「引用カード」に書きためた。それを基に伝えたいことを自分で選択して報告する文章を書く子供の姿が見られた。「引用カード」を蓄積してきたことで、何を書けばよいかで悩むことが少なくなった。子供たちが関心をもっている「米づくり」についての願いを基にした調べ活動と、書くテーマや伝える内容とを結び付けた単元構想にしたことで、子供の書く意欲を高めることができた。



<学習の流れが見通せる掲示>

(2) 読み手になって推敲するためのグループ学習

分かりやすく伝わる文章になっているかを読み合っで見直すグループ学習を行った。報告したい内容が同じ子供同士でグループを作ること、書く人によって使う言葉や文章構成が違うことに気づきやすいと考えた。その結果、「水をやる」と書くだけではなく、水の温度や量、回数等も書く方が読み手に分かりやすいことや「種籾」という言葉が伝わりにくいこと等に気づくことができた。全体の話し合いで、N児は、「調べた人は種籾が何か分かるんだよね。でも、知らない人には何のことか分からないんじゃないかな」と発言した。読み手の立場になって考えた発言を聞き、書き手には分かるけれども読み手に伝わらない専門用語をどうすればよいか、考えるきっかけとなった。読み方が難しい専門用語にルビを振ったり、言葉の意味の説明を書き加えたりし、自分の文章を見直す子供の姿が見られた。

3 研究の成果

- 総合的な学習の時間と関連させたことで、書くことの材料が調いやすくなった。子供の実態を把握し「なぜ書く必要があるのか」を考えさせ、他の学級の友達に読んでもらうという書く目的を明確にすることは、書く意欲を高める上で欠かせないものだと感じた。
- 推敲する際にグループで読み合うことで、自分の書いた文章を他者が読んだらどう思うかということを考えさせることができた。

4 今後の課題

- 学習課題をよく吟味することが重要である。「分かりやすい」というのは、誰にとって分かりやすいのかということをはっきりさせておくべきであった。読み手を意識した具体的な観点で、推敲することができるようにしたい。
- 今回は、アドバイスがしやすいように同じ内容ごとにグループをつくったが、稲のことを何も知らない人が読んで伝わるかという意識が低くなってしまった。ねらいに合ったグループをつくることで、読む対象を意識して推敲できるのではないだろうか。

令和4年度 教育助成要項

校内研修の活性化及び特色ある学校づくりにかかる費用への助成を行う事業です。

1. 主催 公益財団法人 日本教育公務員弘済会 富山支部

2. 助成要件

(1) 助成の趣旨

- ・ 令和4年度に行う校内研修や特色ある学校づくりにかかる費用への助成を通して学校教育の向上発展に寄与します。
- ・ 申請に対し1校につき3万円を助成します。

(2) 応募対象

中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校（中学部・高等部）

(3) 応募期間 令和4年4月1日(金)～令和4年5月31日(火)

(4) スケジュール

令和4年6月下旬 教育振興事業選考委員会で選考を行います。

7月上旬 採否の結果を通知し助成します。

3. 申請について

(1) 「教育助成申請書」を提出してください。

(2) 様式は弘済会富山支部ホームページからダウンロードしてください。

<https://www.nikkyoko.or.jp/company/toyama>

(3) 適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。

4. 選考基準について

2ページにある「選考について」の留意事項等により、選考を行います。

5. 報告について

(1) 研修内容と成果、助成金の主な用途についての報告を提出してください。

(2) 領収書（コピー可）も必ず添付してください。尚、領収書は助成額以上となるようお願いします。

(3) 様式は弘済会富山支部ホームページからダウンロードしてください。また、成果資料等があれば添付してください。

6. 報告の提出日 令和5年2月28日(火)までに提出してください。

7. 送付先

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館内

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部宛 Tel (076) 432-6562

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

申請者 氏

所在地

Tel () -

学校名

校長名

職印

教育助成申請書

下記のように研修を行うに当たり、その目的達成のため助成いただきたく、ここに申請いたします。

研修テーマ	
研修にかかる教材・教具等とその費用	
使用計画	

[個人情報の取扱いについて]

- ・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部（以下当会という）は、適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。
- ・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

弘済会受付	合 議	決定支給額と支給期日

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

申請者 〒 938-△△△△

所在地 黒部市〇〇町△△

Tel (0765) △△ - △△△△

学校名 黒部市立〇〇小学校

校長名 校長 射水 一郎

職印

教育助成申請書

下記のように研修を行うに当たり、その目的達成のため助成いただきたく、ここに申請いたします。

研修テーマ 主体的に学習に取り組み、共に高め合う子供の育成	
研修にかかる教材・教具等とその費用 ・ホワイトボード1枚 △△△円 ・講師謝金 △△△円 ・〇〇学習教材 △△△円	
使用計画	・〇〇を活用し、〇〇学習の活動に役立てる。 ・〇〇するために使用する。 等 ※ <u>助成の対象にならないもの</u> ・研修に直接関係がない品物など。 ※児童・生徒が使用する場合は、汎用性のある機器（デジタルカメラ・ビデオカメラ等）であっても助成対象となります。

[個人情報の取扱いについて]

- ・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部（以下当会という）は、適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。
- ・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

弘済会受付	合 議	決定支給額と支給期日

教育助成報告書

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

学校名

校長名

職印

下記のとおり「領収書」を添えて報告します。

実践研修テーマ
現状（課題）とテーマ設定の理由
研修内容と成果
助成金の主な用途

教育助成報告書

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

学校名 黒部市立〇〇小学校

校長名 校長 射水 一郎

職印

下記のとおり「領収書」を添えて報告します。

<p>実践研修テーマ 若手教職員の指導力向上を・・・・・・・・・・</p>
<p>現状（課題）とテーマ設定の理由 今年度は、昨年度の研修を・・・・・・・・・・</p>
<p>研修内容と成果</p> <p>(1) 研修内容</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>(2) 成果</p> <p>・</p> <p>・</p>
<p>助成金の主な用途 ・〇〇制作費 ・講師謝金 等 計 △△△円</p>

〈添付書類〉・領収書（コピー可）を別紙（A4用紙等）に貼付してください。

教育助成報告書

令和3年11月25日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

学校名 入善町立黒東小学校

校長名 内山 真之 職印

下記のとおり「領収書」を添えて報告します。

実践研修テーマ

思いや願いの実現に向けて探究する子供の育成

現状（課題）とテーマ設定の理由

本校は、前年度から2年間、県小教研生活科・総合的な学習の時間の研究推進校として、研修テーマ「思いや願いの実現に向けて探究する子供の育成」の具現化に向けて研究を進めてきた。前年度、研究を進める中で、様々な成果がみられた一方で、「教師の願いと子供の願いの調和のとれた単元構想」「子供たちが深く考えるための話合いの展開」等に課題が見られた。そこで、本年度は、この課題を主眼に2つの視点から研修テーマの解明を図ることとした。

研修内容と成果

(1) 研修内容

- 視点1 本気の学びを生み出す単元構想（切実感のある課題設定、単元との出会い方や単元名の工夫、気づきを促す価値ある活動や体験、単元のねらいにせまる話合いの設定）
- 視点2 一人一人の思いや願いを確かにしていく支援（学びを捉え、自覚につなげる支援、取組を見直したり充実させたりする話合いの展開）

(2) 成果

- ① 単元の導入で、単元全体の学習計画（右の写真）を提示し、子供と単元の見通しを共有することで、目当てをもったり取組の意味を捉えたりしながら学習を進めていくことができた。また、単元を進めていく中で、子供の探究の様子を捉え、単元の学習計画を子供と共に見直し修正していくことで、子供の思いや願いに寄り添って学習を進めることができ、本気の学びへとつなげることができた。
- ② 活動や体験の中で生まれた気づきを共有する場をタイミングよく設定することで、個の気づきがつながり、質が高まったり、新たな気づきや課題を見付けたりすることができ、探究を充実させていくことができた。



【単元の学習計画の掲示物】

助成金の主な用途

パーテーションホワイトボード 31,000円（1,000円は本校会計より支出）

令和4年度 現職研修助成要項

学校経営の一翼を担い、学習指導や生徒指導等に今日的な課題を掲げて研修に取り組む団体及びグループからの申請に対して、事業規模と内容に応じて助成する事業です。

1. 主催 公益財団法人 日本教育公務員弘済会 富山支部

2. 助成要件

(1) 助成の趣旨

富山県の教育関係団体及び教育研究団体が令和4年度に行う、有益な研修を対象として助成することで学校教育の向上発展に寄与します。

申請に対し1件につき3万円を助成します。

(2) 応募対象

教育関係団体及び教育研究団体

① 応募者が計画の推進に責任を持ち、助成金の管理及び報告を行うことを条件とします。

② 1年間(4月1日から3月31日)で完了する研究・活動等とします。

(3) 応募期間 令和4年4月1日(金)～令和4年5月31日(火)

(4) スケジュール

令和4年6月下旬 教育振興事業選考委員会で選考を行います。

7月上旬 採否の結果を通知し助成します。

3. 申請について

(1) 「現職研修助成申請書」を計画資料と団体(グループ)の規約を添えて提出してください。

(2) 様式は弘済会富山支部ホームページからダウンロードしてください。

<https://www.nikkyoko.or.jp/company/toyama>

(3) 適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。

4. 選考基準について

2ページにある「選考について」の留意事項等により、選考を行います。

5. 報告について

(1) 研修内容と成果、助成金の主な用途についての報告を提出してください。

(2) 領収書(コピー可)も提出してください。尚、領収書は助成額以上となるようお願いいたします。

(3) 様式は弘済会富山支部ホームページからダウンロードしてください。また、成果資料等があれば添付してください。

6. 報告の提出日 令和5年2月28日(火)までに提出してください。

7. 送付先 〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館内

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部宛 Tel (076) 432-6562

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

申請者 氏 名

所在地

団体名又はグループ名

TEL () -

代表者 職 名

氏 名

職印

現職研修助成申請書

下記のように研修事業を展開するに当たり、その目的達成のため助成いただきたく、別紙計画資料を添えて申請いたします。

記

1. 事業名
2. 開催期日
3. 主催者名
4. 後援者名
5. 参加者数及び内訳
6. 総事業費
7. 計画資料（別紙）
8. 組織規約（別紙）

[個人情報の取扱いについて]

- ・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部（以下当会という）は、適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。
- ・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

弘済会受付	合 議	決定支給額と支給期日

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

申請者 〒 932-△△△△

所在地 南砺市〇〇町△△

団体名又はグループ名

〇〇中学校区小中連携推進研究会

TEL (0766) △△ - △△△△

代表者 職 名 会長、委員長、代表等

※ 「校長」とはなりません

氏 名 氷見 一郎

職印

現職研修助成申請書

下記のように研修事業を展開するに当たり、その目的達成のため助成いただきたく、別紙計画資料を添えて申請いたします。

記

1. 事業名 〇〇中学校区小中連携推進事業
2. 開催期日 令和4年4月～令和5年3月
3. 主催者名 〇〇中学校区小中連携推進研究会
4. 後援者名 特になし
5. 参加者数及び内訳 △△名(〇〇中△名、〇〇小△名、〇〇小△名、〇〇小△名)
6. 総事業費 △△△円
7. 計画資料 (別紙)
8. 組織規約 (別紙)

[個人情報の取扱いについて]

- ・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部 (以下当会という) は、適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。
- ・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

弘済会受付	合 議	決定支給額と支給期日

現職研修助成報告書

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

所在地

団体名又はグループ名

代表者 職 名

氏 名

職印

下記のとおり領収書を添えて報告します。

事業名	
開催期日	
助成金額	
研修内容と 成 果	
助成金の 使 途 明 細	(計 円)

現職研修助成報告書

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

所在地 南砺市〇〇町△△
 団体名又はグループ名 〇〇中学校区小中連携推進研究会
 代表者 職 名 会長
 氏 名 氷見 一郎 職印

下記のとおり領収書を添えて報告します。

事 業 名	〇〇中学校区小中連携推進事業
開 催 期 日	令和4年△月～令和5年△月
助 成 金 額	△△△円
研 修 内 容 と 成 果	1 研修内容 2 成果 ・学習規律の接続を図ったり…………… ・小・中学校相互の授業参観及び研究会への参加……………今後、連携の在り方について一層の工夫が必要である。
助 成 金 の 使 途 明 細	・講師謝金 △△△円 ・会場使用料 △△△円 (計 △△△円)

〈添付書類〉 ・領収書（コピー可）別紙（A4用紙等）に貼付してください。

・成果資料「研究会資料」等

「非日常ではなく異日常」

富山県立ふるさと支援学校
教諭 三島 大武

今回の講座に参加させていただいて、一番印象に残っているのが「非日常ではなく異日常」というフレーズです。自身も出かけることは好きなのですが、どこか非日常的な物事に関心が向きがちで、訪れた場所の日常、つまり自分たちとは異なる日常に目を向けるという考え方は持ち合わせていませんでした。



本日のお話にもあったように、自分たちの当たり前と他の人や場所にとっての当たり前を比較することを通して、物事を多角的に見る力を養うことは、多様性が重視される現代を生きていく上で非常に意味あることだと考えます。

私自身英語を教えている身であり、英語という言語を通じて、自分たちにとっての当たり前と、海外の人々にとっての当たり前を比べることが可能になると思います。今回の自身の学びを基に、これからも教員として様々な工夫ができたらと思いました。

「おわらが教えてくれたこと」

富山市立芝園小学校
教諭 田辺 萌

本講座では、見学や体験などを通して、八尾の魅力を発見することができました。



初めておわらを見ましたが、踊り、歌と楽器の三者が合わさっており、見た瞬間から心が引き付けられました。お話を聞いて、毎年の本祭に向け、

町内ごとに毎週練習を行っていることを知りました。日々の練習で積み重ねている技術とおわらを大切に伝え残していきたいという八尾の人々の気持ちが重なって、魅力あるおわらになるのだと思いました。また、八尾の人の生活に溶け込んでいるおわらが、私にとって魅力的に感じたように、身近にありすぎてその魅力に気付いていないことが富山に数多く隠れているのではないかと思います。

本講座を通して、富山のこともっと多角的に見たり、他の地域と比較したりしながら、富山の魅力をたくさん発見してみたいと思いました。

「地元企業経営者から聞く

八尾の魅力と今後の展望」

高岡市立能町小学校
教諭 高野 昌幸

(株)OZ Links の原井社長の講演が印象に残りました。昨今では、コロナ禍の影響によりインバウンドが減ったことで、八尾町の景観を活かした結婚式の前撮り事業や和紙製造会社や高岡の伝統工芸師とのコラボレーション事業等、八尾町の観光事業復興のための工夫を計画していると聞きました。

原井社長は、町の魅力を資源と捉え、顧客のニーズを分析し、そこから新たなものを生み出す



IRN (Issue Resource Needs) 事業計画を進めているということです。事業を発展させるだけでなく、八尾町の定住人口増加を目指しておられ、広い視野で物事を捉えることの大切さを学びました。

地元企業経営者から現在厳しい状況にある具体的な観光事業を復興するための話を直接聞くことができたことは、貴重な体験だったと思います。

「富山の魅力発見講座で学んだこと」

富山市立月岡中学校
教諭 池田 若奈

原井さんの講話では、海外から八尾を訪れた家族のエピソードが、私の印象に残りました。その家族は、八尾の人々の温かさに触れ、自国にはない雪を見るために、冬に再び八尾を訪れたということでした。

私は、人が互いに与え合うパワーと出会いの尊さに感動しました。また、普段何気なく目にしている風景や日常に、新たな価値を見出す視点をもつことの大切さに気付きました。

おわら鑑賞や街並み見学でも、多くの方々から八尾の美しい文化や歴史について教えていただきました。おわらも街並みも、人から人へと大切に受け継がれてきたもので、そこに携わる人の愛を感じました。

今後子ども達と一緒に学びながら、時には視点を変えて、身近なものの中から新たな魅力を見つけていきたいと思えます。



第四回 富山の魅力発見講座

【講師】(株)オズリンクス

原井紗友里 代表取締役社長

【日時】

令和三年七月二十七日(火) 九時半〜

【場所】越中八尾観光会館



PART 2

教育文化事業

- ☘ 文化振興助成 53
- ☘ 文化講演会「富山の魅力発見講座」 58

様式は <https://www.nikkyoko.or.jp/company/toyama> からダウンロードできます。

令和4年度 文化振興助成要項

青少年の健全な育成を目的とした、文化・芸術・スポーツの振興に資する事業、並びにこれに準ずると認められる事業の展開にあたる教育関係団体等からの申請に対して、事業規模と内容に応じて助成する事業です。

1. 主催 公益財団法人 日本教育公務員弘済会富山支部

2. 助成要件

(1) 助成の趣旨

- ・富山県の教育関係団体等が令和4年度に行う青少年の健全な育成を目的とした、文化・芸術・スポーツの振興に資する有益な事業を対象とした助成を通して学校教育の向上発展に寄与します。
- ・申請に対し1件につき5万円程度を助成します。

(2) 助成の対象にならないもの

- ① 営利目的、または営利につながる可能性の大きいもの
- ② 他の機関からの委託によるもの
- ③ 既に終了しているもの

(3) 応募対象

教育関係団体等（学校、非営利団体、グループ）

- ① 応募者が計画の推進に責任を持ち、助成金の管理及び報告を行うことを条件とします。
- ② 1年間（4月1日から3月31日）で完了する研究・活動等とします。

(4) 応募期間 令和4年4月1日（金）～令和4年5月31日（火）

(5) スケジュール

令和4年6月下旬 教育振興事業選考委員会で選考を行います。
7月上旬 採否の結果を通知し助成します。

3. 申請について

(1) 「文化振興助成申請書」を計画資料と団体の規約を添えて提出してください。

(2) 様式は弘済会富山支部ホームページからダウンロードしてください。

<https://www.nikkyoko.or.jp/company/toyama>

(3) 適正に取得した個人情報をご当会の教育振興事業の運営のために利用します。

4. 選考基準について

2ページにある「選考について」の留意事項等により、選考を行います。

5. 報告について

(1) 活動内容と成果、助成金の主な用途についての報告を提出してください。

(2) 領収書（コピー可）も必ず添付してください。尚、領収書は助成額以上となるようお願いします。

(3) 様式は弘済会富山支部ホームページからダウンロードしてください。また、成果資料等があれば添付してください。

6. 報告の提出日 令和5年2月28日（火）までに提出してください。

7. 送付先

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館内
公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部宛 TEL(076)432-6562

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

申請者 下

所在地

団体名

Tel () -

代表者

職 名

氏 名

印

文化振興助成申請書

下記のように文化事業を展開するに当たり、その目的達成のため助成いただきたく、別紙計画資料を添えて申請いたします。

記

1. 事業名
2. 開催期日
3. 主催者名
4. 後援者名
5. 参加者数及び内訳
6. 総事業費
7. 計画資料（別紙）
8. 組織規約（別紙）

文化振興助成の活動【例】

小学校

- ・地域のゲストティーチャーと活動するクラブ活動
- ・ふるさと大好き“ふるさと学習”
- ・豊かな体験活動で学ぶ心を育てる

中学校

- ・生徒会活動で地域にアタック
- ・外部講師に学び、国際感覚を育てる

高等学校

- ・地域に根ざしたSDGsの取り組み

[個人情報の取扱いについて]

- ・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部（以下当会という）は、適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。
- ・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

弘済会受付	合 議	決定支給額と支給期日

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

申請者 〒 933-△△△△
 所在地 高岡市〇〇-△
 団体名 高岡〇〇教育文化研究会
 TEL (0765) 33 - 0000
 代表者
 職 名 会長
 氏 名 入善 一郎



文化振興助成申請書

下記のように文化事業を展開するに当たり、その目的達成のため助成いただきたく、別紙計画資料を添えて申請いたします。

記

1. 事業名 第△△回 〇〇展覧会
2. 開催期日 令和4年△△月△△日(木)～△△月△△日(月)
3. 主催者名 高岡〇〇教育文化研究会
4. 後援者名 富山県小中〇〇研究会 ※ない場合は「なし」と記入
5. 参加者数及び内訳 1,000名(教職員100名、児童生徒300名、保護者600名)
6. 総事業費 △△△円
7. 計画資料(別紙) ※様式は自由(活動内容が分かるもの)
8. 組織規約(別紙) ※学校の場合は、「学校要覧」のコピー等(組織が分かるもの)

[個人情報の取扱いについて]

- ・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部(以下当会という)は、適正に取得した個人情報を当会の教育振興事業の運営のために利用します。
- ・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

弘済会受付	合 議	決定支給額と支給期日

文化振興助成報告書

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

所在地

団体名

代表者 職 名

氏 名

印

下記のとおり領収書を添えて報告します。

事業名	
開催期日	
助成金額	
活動内容と 成 果	
助成金の 使 途 明 細	(計 円)

文化振興助成報告書

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

所在地 高岡市〇〇-△

団体名 高岡〇〇教育文化研究会

代表者 職 名 会長

氏 名 入 善 一 郎



下記のとおり領収書を添えて報告します。

事業名	第△△回 〇〇展覧会
開催期日	令和4年△△月△△日(木)～△△月△△日(月)
助成金額	△△△円
活動内容と成果	1. 活動内容 (1) (2) (3) 2. 成果 ・ ・
助成金の 使途明細	・会場費 △△△円 ・表彰盾 △△△円 (計 △△△円)

〈添付書類〉 ・領収書（コピー可）別紙（A4用紙等）に貼付してください。

・成果資料「活動のまとめ」等

令和4年度 文化講演会「富山の魅力発見講座Ⅴ」要項

本会が、教育文化の振興を目的として開催する「富山の魅力発見講座」事業です。
令和4年度は、感染対策を行い下記のとおり実施します。

1. 主催 公益財団法人 日本教育公務員弘済会 富山支部

2. 内容等

(1) ねらい 富山の魅力を語り合いながら、教職員の交流を図り、県内若手教職員を元気にします。

(2) 日時 令和4年7月28日(木)、7月29日(金) 10:00～13:00

※ ご都合のよい希望日に参加可能です。

(3) 講師 元ディズニーランドキャスト 川田 直子 氏

(4) 内容 講座Ⅰ「元ディズニーキャストの講話」

講座Ⅱ「参加者と講師の対談」

講座Ⅲ「セイアグリー健康卵について」

(5) 対象 35歳以下の県内教職員

(6) 場所 フェルヴェール本店（高岡市福岡町下老子 775-2）

(7) 定員 各回 25名程度

(8) 応募期間 5月上旬～6月下旬を予定

(9) 決定通知 7月上旬に決定を通知します。



川田 直子 講師



講座会場

3. 申込について

(1) 5月上旬に参加申込用チラシを配付する予定です。

(2) 「富山の魅力発見講座参加申込書」を提出してください。

4. これまでの講座

- ・2017 富山の魅力発見講座Ⅰ 場所：高志の国文学館 講師：米原 寛氏（50名参加）
- ・2018 富山の魅力発見講座Ⅱ 場所：(株)能作本社 講師：能作千春氏（62名参加）
- ・2019 富山の魅力発見講座Ⅲ 場所：呉羽ハイツ 講師：川田直子氏（61名参加）
- ・2020 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
- ・2021 富山の魅力発見講座Ⅳ 場所：八尾観光会館 講師：原井紗友里氏（62名参加）

令和4年度 へき地学校教育支援事業要項

へき地学校教育支援助成は、山間地、離島その他の地域に所在する学校の教育内容を充実することに寄与貢献する活動に対し助成を行う事業です。ただし、この事業は令和4年度に限定した事業です。

1. 主催 公益財団法人 日本教育公務員弘済会 富山支部

2. 助成要件

(1) 助成対象及び助成金額

「へき地教育振興法」に基づいた指定学校のうちへき地等級2～5級の学校を対象とし、1校あたり5万円以内の助成をします。※県内3校が該当

(2) 対象事業

- ・へき地学校がもつ課題等に対して研究・活動を行う事業
- ・へき地学校の課題解決のため備品・教材を購入し教育環境を整備する事業
- ・地域や保護者、近隣の学校及び教育団体等と連携し、子どもたちの資質を高めることを目的とする事業

(3) 応募期間 令和4年4月1日（金）～令和4年5月31日（火）

(4) スケジュール

令和4年6月下旬 教育振興事業選考委員会で選考を行います。

令和4年7月上旬 採否の結果を通知します。

3. 申請について

(1) 「へき地学校教育支援事業申請書」を弘済会富山支部に提出してください。

(2) 様式は弘済会富山支部ホームページからダウンロードしてください。

<https://www.nikkyoko.or.jp/company/toyama>

(3) 適性に取得した個人情報をご当会の教育振興事業の運営のために利用します。

4. 選考基準について

2ページにある「選考について」の選考基準により、選考を行います。

5. 報告について

(1) 活動終了後に助成金の使途や成果の概要等に関する報告を提出してください。

(2) 領収書（コピー可）も必ず添付してください。尚、領収書は助成額以上となるようお願いします。

(3) 様式は弘済会富山支部ホームページからダウンロードしてください。また、活動が分かる成果資料があれば添付してください。

6. 報告の提出日 令和5年2月28日（火）までに提出してください。

7. 送付先

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館内

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部宛 TEL (076) 432-6562

受付番号

(へき地学校教育支援事業様式1)

へき地学校教育支援事業申請書

令和 年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部 様

職・氏名 _____ 印

へき地学校教育支援事業について、下記のとおり申請いたします。

記

1. 申請金額

	円
--	---

2. 学校情報

学校名				校長名	
住所等	〒				
	Tel:			Fax:	
	E-mail:				
	この申請書に関する 問い合わせ先	氏名:			
	Tel:				
	E-mail:				

3. 研究・活動主題

--

4. 申請理由・研究活動概要

--

5. 助成金使用予定内訳

用途	金額(単位:円)
合計	

注：下記の経費は助成対象となりません。

- (1) 人件費（外部講師費用は除く）
- (2) 研修参加費（交通費も不可）
- (3) 学校の一般管理費（例：公共料金の支払い等）
- (4) 懇親会等の飲食費
- (5) その他事業に関係ない物品購入費等

※ 個人情報の取り扱いについては、募集要項「個人情報の取扱い」の項目をご覧ください。

受付番号

へき地学校教育支援事業申請書

令和 年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部 様

職・氏名 校長・南砺 三郎 印

へき地学校教育支援事業について、下記のとおり申請いたします。

記

1. 申請金額

50,000	円
--------	---

2. 学校情報

学校名	南砺市立〇〇中学校		校長名	南砺 三郎
住所等	〒			
	Tel:		Fax:	
	E-mail:			
この申請書に関する 問い合わせ先	氏名:			
	Tel:			
	E-mail:			

3. 研究・活動主題

小規模校における確かな学力向上を目指して

4. 申請理由・研究活動概要

小規模校において、学力の向上を目指すため、タブレット端末等を効果的に活用し、～

※ 狭いときは、広げて記入してください。申請書が
2ページになってもかまいません。

5. 助成金使用予定内訳

用途	金額(単位:円)
講師謝金	△△△円
※ 枠が不足している場合は増やしてください。申請書が2ページになってもかまいません。	
合計	

注：下記の経費は助成対象となりません。

- (1) 人件費（外部講師費用は除く） (2) 研修参加費（交通費も不可）
 (3) 学校の一般管理費（例：公共料金の支払い等） (4) 懇親会等の飲食費
 (5) その他事業に関係ない物品購入費等

※ 個人情報の取り扱いについては、募集要項「個人情報の取扱い」の項目をご覧ください。

受付番号

(へき地学校教育支援事業様式2)

へき地学校教育支援事業報告書

令和 年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部 様

職・氏名

印

1. 学校情報

学校名		校長名	
-----	--	-----	--

2. 研究・活動主題

--

3. 事業報告（助成金の使途や成果の概要を記入してください）

--

4. 助成金使用内訳

助成金額	円
使途	金額(単位:円)
合計	

注：下記の経費は助成対象となりません。

- (1) 人件費（外部講師費用は除く）
- (2) 研修参加費（交通費も不可）
- (3) 学校の一般管理費（例：公共料金の支払い等）
- (4) 懇親会等の飲食費
- (5) その他事業に関係ない物品購入費等

※ 個人情報の取り扱いについては、募集要項「個人情報の取扱い」の項目をご覧ください。

へき地学校教育支援事業報告書

令和5年2月21日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部 様

職・氏名 校長・南 砺 三郎 印

1. 学校情報

学校名	南砺市立〇〇中学校	校長名	南 砺 三郎
-----	-----------	-----	--------

2. 研究・活動主題

小規模校における確かな学力向上を目指して

3. 事業報告（助成金の使途や成果の概要を記入してください）

今年度は、本校の学力の状況を把握することからスタートした。特に気になる部分は、～

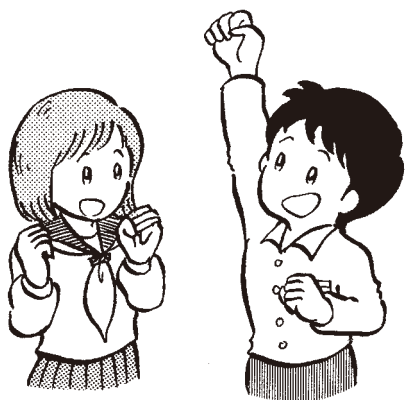
4. 助成金使用内訳

助成金額	円
使途	金額(単位:円)
合計	

注：下記の経費は助成対象となりません。

- (1) 人件費（外部講師費用は除く）
- (2) 研修参加費（交通費も不可）
- (3) 学校の一般管理費（例：公共料金の支払い等）
- (4) 懇親会等の飲食費
- (5) その他事業に関係ない物品購入費等

※ 個人情報の取り扱いについては、募集要項「個人情報の取扱い」の項目をご覧ください。



PART 3

奨学事業

☘ 貸与奨学生募集	65
☘ 給付奨学生募集	67
☘ 大学給付奨学生（予約型）募集	71

様式は <https://www.nikkyoko.or.jp/company/toyama> からダウンロードできます。

令和4年度 貸与奨学生募集要項

勉学意欲がありながら経済的理由により修学困難な学生に対し奨学金を貸与する事業です。

1. **募集対象** 大学院、大学、短期大学、高等専門学校（4年生以上）
及び専修学校専門課程に入学または在学者

2. **募集人数** 若干名

3. **貸与金額** 4年制大学 100万円
短大(2年制) 50万円

* 修業期間1年につき25万円を1人100万円を限度に無利息で貸与します。

【貸与例】

・ 4年制大学の2年生に貸与した場合（残存修業期間は2～4年生の3年間）

$25 \text{万円} \times 3 \text{年間} = 75 \text{万円}$ まで貸与可能

・ 2年制短期大学卒業後4年制大学の3年生に編入した場合（残存修業期間は3～4年生の2年間）

$25 \text{万円} \times 2 \text{年間} = 50 \text{万円}$ まで貸与可能

・ 4年制大学で2年生の時に75万円を貸与した奨学生が、大学院修士課程に進学した場合 すでに75万円貸与しているので、貸与上限100万円－75万円＝25万円まで貸与可能

4. **貸与方法** 一括貸与します。（6月下旬の予定）

5. **返還方法** 卒業した年の12月から10年にわたる分割返済です。
（100万円未満は8年分割返済）

* 大学院に進んだ場合は、返済延期手続きは可能です。

* 年賦返済金が延滞したときは、延滞金を徴収します。

6. **申込期間** 令和4年2月21日（月）～令和4年4月28日（木）までです。

7. **申込方法** 本会事務局へ電話でお申し出ください。

その後、「貸与奨学金申込書」を提出してください。

[添付書類] 申込書のほか、以下の書類が必要です。あらかじめご準備ください。

・ 収入に関する証明書 [源泉徴収票又は市町村の所得証明書（コピー可）]

・ 在学証明書 [原本]

8. **その他**

・ 債務者は奨学生本人です。連帯保証人は保護者等とし連帯債務を負います。

・ 申請書類には、奨学生本人と親権者のそれぞれの自署捺印が必要です。

・ 同一筆跡の場合は受理できませんのでご注意ください。

9. **選考と決定** 教育振興選考委員会で審査のうえ、決定します。

10. **送付先** 〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館内
公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部宛 TEL(076)432-6562

貸与奨学金申込書

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

貴会の貸与奨学金を受けたいので、申し込みます。

また、下記「個人情報の取扱いについて」の事項を確認し了承しました。

生徒	フリガナ		性別	生年月日	
	氏名	Ⓜ	男・女	昭和 平成	年 月 日 (満 歳)
	在学学校名	高等学校 高等専門学校 学校		学年	
	入学予定 学校名			年制	
親権者	フリガナ		性別	生徒との続柄	
	氏名	Ⓜ	男・女		
	現住所	〒		TEL	()
	勤務先	名称	所在地 〒	TEL	()
備考					

- (注) 1. 氏名は奨学生本人と親権者のそれぞれの自筆でお願いします。
 2. 印鑑は生徒と親権者で、それぞれ別の印鑑を使用してください。
 3. 備考欄には申込に当たっての特別な事情があれば記入してください。

家族記入欄(生徒本人は除く)

続柄	氏名	性別	年齢	勤務先等	備考

※「個人情報の取扱いについて」

- ・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部(以下当会という)は、適正に取得した個人情報を当会の奨学事業の運営のために利用します。
- ・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

受付	No.	年 月 日
----	-----	-------

令和4年度 給付奨学生募集要項

1. 応募資格

富山県の高等学校（特別支援学校の高等部を含む）に在籍する第3学年の生徒とし、修学意欲がありながら、学資金の支払いが特に困難である者。

2. 推薦の条件

- (1) 家庭の事情で経済的援助が特に必要であること。
 - (2) 向学心に富み学業に耐えうる者であること。
 - (3) 生徒会活動（部活動も含む）に意欲的な者であること。
- ＊ 他の奨学金との併給も可。

3. 奨学金給付の内容

- (1) 給付金額 奨学生一人に対し10万円を給付します。
- (2) 募集人数 40名

4. 応募の手続き

- (1) 提出書類
 - ①給付奨学生申請書・・・・・・・・・・・・・・・・（給奨学様式1）
 - ②高等学校等給付奨学生推薦書（学校用）・・・・・・（給奨学様式2）
 - ③成績証明書・・・・・・・・・・・・・・・・学校の様式で厳封したもの
- (2) 応募期間 令和4年4月1日（金）～令和4年5月31日（火）（必着）
- (3) 書類提出先

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館内
公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部 宛
TEL 076-432-6562 FAX 076-432-1766

＊個人情報保護との関わりもありますので、取扱・送付に十分ご配慮願います。

5. 奨学生の選考

富山支部の教育振興事業選考委員会の選考を経て支部長が決定し、学校長を經由して本人へ通知します。

6. 給付金交付

給付金は、7月、学校長より生徒本人（親権者同伴）に手交します。

7. 成果報告書の提出

奨学金の給付を受けた者は給付後1月末日まで、学校を通して給付奨学生成果報告書（給奨学様式3）を富山支部長に提出することとします。

8. 奨学金の返還

奨学生が、次の事項のいずれかに該当したときには、ただちに給付金を返還するものとします。

- (1) 休学または退学したとき
- (2) 奨学生としてふさわしくない行為のあったとき

*この欄は記入しないでください。

給奨学様式1

決定番号				
決定年月日	年 月 日			

給付奨学生申請書

年 月 日

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部長 様

貴会募集の高等学校等奨学生としてご採用いただきたく、申請します。
また、下記「個人情報の取扱いについて」の事項を確認し了承しました。

生徒	フリガナ		性別	生年月日	
	氏名	Ⓜ	男・女	年 月 日 (満 歳)	
	学校名	高等学校 支援学校	学年	年入学	年卒業 見込
親権者	フリガナ		性別	生徒との続柄	
	氏名	Ⓜ	男・女		
	現住所	〒 TEL ()			
	勤務先	名称			
	住所	〒 TEL ()			
給付申請金額		10 万円			
経済的援助が必要な理由		----- -----			

家族記入欄(生徒本人を除く)

続柄	氏名	年齢	同居・別居	職業	勤務先等	備考

- (注) 1. 生徒欄は奨学生本人が自筆してください。
2. 経済的援助が必要な理由については、具体的に記入してください。
3. 所得証明書(前年分の源泉徴収票「写」、確定申告「写」または納税証明書等)の提出をしていただく場合があります。
4. 個人情報の取扱いについて
・公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部(以下当会という)は、適正に取得した個人情報を当会の奨学事業の運営のために利用します。
・当会の個人情報保護については、当会のホームページをご覧ください。

令和4年度 大学給付奨学生（予約型）募集要項

1. 応募資格

富山県の高等学校等に在籍する第3学年の生徒で、修学意欲がありながら学資金の支払いが特に困難と認められる者。

2. 求める学生像

将来、社会の発展に貢献したいという高い志のもと、自らの夢や目標を明確にもち、その実現に向け学び続ける者。

3. 推薦の条件 次の全ての要件を満たすこと

- (1) 県内高等学校等の最終学年又は高等専門学校第3学年に在学し、全国の国公立大学（通信教育の学部・課程、短期大学、大校は対象外）に進学を目指す生徒であること。
- (2) 家庭の事情により学費支弁困難（同一生計の収入合計金額400万円未満）と認められ、かつ修学意欲に富み、かつ学業を継続できると在学する高等学校等の校長の推薦を受けた生徒（1校1名まで）であること。
- (3) 在学期間における全体の学習成績の状況（評定平均値）が4.0以上の生徒、又は特別支援学校高等部にあつては、校長が同程度の学力があると認める生徒であること。

4. 奨学金給付の内容

- (1) 給付金額 奨学生一人に対し月額3万円を給付します。（年4回振込、上限4年間）
- (2) 募集人数 4名
- (3) 実施期間 令和5年度大学入学生から令和8年度大学入学生までの4年間実施

5. 応募の手続き

- (1) 提出書類 ① 大学給付奨学生（予約型）申請書 ② 申請者情報及び身元保証人確認書
③ 個人情報の取扱いに関する同意書 ④ 世帯全員の所得証明書
⑤ 大学給付奨学生（予約型）推薦書 ⑥ 成績証明書 ※⑤⑥は学校作成

(2) 応募期間 令和4年8月1日（月）～令和4年9月16日（金）必着

(3) 書類提出先

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1 富山県教育記念館内
公益財団法人 日本教育公務員弘済会富山支部 宛

TEL 076-432-6562 FAX 076-432-1766

ホームページ <https://www.nikyoko.or.jp/company/toyama> を参照願います。

6. 奨学生の選考

富山支部の選考委員の第1次選考（書類選考）、第2次選考（面接選考）を経て日本教育公務員弘済会理事長が奨学生内定者を選定し、高等学校等を通じて生徒本人に採用内定通知書を手交します。

7. 奨学生の採用決定

入学1年目の4月20日までに奨学生内定者が提出すべき書類（進学した大学の在学証明書、誓約書、振込依頼書）を提出した後、採用決定通知書が送付されます。

大学給付奨学生（予約型）申請書

（給奨学様式1）

1. 申請者（本人）情報

名前	フリガナ	生年月日		
		西暦	年 月 日	生 (年齢 歳)
学校名	国立 () 都・道・府・県・市 立 私立			
学内外の活動・特技・資格				
当会の貸与奨学金		<input type="checkbox"/> 申請予定 <input type="checkbox"/> 申請しない <input type="checkbox"/> 未定		

2. 同一生計の家族及びその収入・所得に関する調査

同一生計 家族人数	人 ※下記項目に記入する人数と一致させてください。				
就学者を除く家族（父母・祖父母等）	続柄	年齢	収入・所得金額（年間）※正確に記入してください		
			給与収入 (年間収入(支払)金額)	年金等収入 (年間収入(支払)金額)	事業所得 (確定申告の所得金額)
			万円	万円	万円
			万円	万円	万円
			万円	万円	万円
			万円	万円	万円
※収入・所得は世帯全員の金額を1万円単位（千円以下切り捨て）で記入してください。 なお、本人・兄弟姉妹の就学者のアルバイト収入は含めません。					
就学者（兄弟姉妹）	続柄	年齢	◇設置者	◇就 学 先	◇通学状況
	本人		国公立・私立	高・特別支援・高専・専修高等 その他	自宅・自宅外
			国公立・私立	小・中・高・特別支援・高専・専修高等 専修専門・短大・大学・大学院・その他	自宅・自宅外
			国公立・私立	小・中・高・特別支援・高専・専修高等 専修専門・短大・大学・大学院・その他	自宅・自宅外
		国公立・私立	小・中・高・特別支援・高専・専修高等 専修専門・短大・大学・大学院・その他	自宅・自宅外	
家庭事情等	下記の事項に該当する場合は、 <input type="checkbox"/> にチェックを入れてく >内に続柄・人数・金額を記入してください。 <input type="checkbox"/> 一人親世帯である <input type="checkbox"/> 主たる家計支持者（父母等）が単身赴任している 続柄< > <input type="checkbox"/> 同一生計の家族に障がいのある者がいる < >人 続柄< > <input type="checkbox"/> 同一生計の家族に長期療養を必要とする者がいる < >人 続柄< > 見込負担額< >万円（年間）				

※印欄は記入しないでください。

※

申請番号

大学給付奨学生（予約型）推薦書

令和 年 月 日

公益財団法人 日本教育公務員弘済会 理事長 様

学校名 _____

校長名 _____ 公印

下記の生徒を貴会の大学給付奨学生として推薦いたします。

記

推薦する生徒

フリガナ			第 学年
名前		学年	(年次) (年度入学生)

推薦理由

1. 在学期間における全体の学習成績の状況（評定平均値）について

※高等学校における直近までの成績証明書を添付すること

2. 学業面・生活態度について

3. 本人の学校内外の活動(特別活動、部活動、ボランティア活動、取得資格、検定等)について

4. その他特記事項等（家計状況等）について（記載は任意）

※ 上記2から4について、1枚に収まらない場合は裏面に記載することも可

〔 福 祉 事 業 〕

- ・ 教弘保険加入者特典のいろいろ
- ・ 受給申請書



- 給付・補助の対象 ● 教弘保険加入者
- | | | |
|-------|-------|------------------|
| 教弘・基本 | 10口以上 | = 65歳以上で80歳まで = |
| ユース教弘 | 10口以上 | I種教弘 10口以上 |
| I種教弘 | 10口以上 | 新教弘K型 2,100円/月以上 |
| 新教弘S型 | 5口以上 | 教弘終身 10,000円/月以上 |

	事業名	給付・補助内容	付記
福 社 業	1. 結婚祝	祝金 10,000円	・申請書に戸籍謄本添付(写し可)又は所属長証明
	2. 出産祝	祝金 10,000円	・申請書に母子手帳「出生届出済証明」の写し添付
	3. 入学祝	大学・短大・専門学校・高専 10,000円 高校 5,000円	・子女の入学に際し、祝い金を贈る ・申請書に①または②を添付 ①学生証コピー(6月末までの申請に限る) ②在学証明書(発行日から3か月以内・写し可)
	4. 弔慰	香典 本人・配偶者・一親等 10,000円	・本人死亡の場合は報告のみ(弔電有) ・配偶者・一親等(姻族を含む)の死亡の場合は申請書に会葬御礼状添付(写し可)又は所属長証明
	5. 健康増進補助	現職会員 5,000円 教弘友の会(退職)会員 8,000円以内	・人間ドック検診に対し、年度1回に限る ・現職の場合は自己負担総額7,000円以上が対象 ・人間ドック検診の領収書を添付(写し可)
	6. 指定宿泊施設利用補助	本人1泊 3,000円 同行の同居の家族1名のみ 1泊 1,000円	・弘済会が指定する宿泊施設に限る(別ページ参照) ・年度5泊まで ・施設に予約の後、宿泊日の10日前までに弘済会に連絡
	7. 鑑賞・観戦補助	◎観覧券	・弘済会指定の鑑賞・観戦に限る ・申し込み多数の時は抽選により決定
そ の 他	・特別協力校(園)記念品	◎記念品贈呈	・教弘保険加入者が60%以上の学校(幼稚園)に贈る
	・加入継続記念品	◎記念品贈呈	・教弘保険に加入後、同一保険が満10年・20年・30年に達した継続者に贈る(グループ保険を含む)

◎は株式会社富山教弘の事業です。

- ・弘済会旅行補助は新型コロナウイルス感染症収束後に検討します。
- ・1.2.3.4.5の各項の給付・補助希望者は、弘済会事務局へ。申請書は事由発生から1年以内に提出して下さい。
- ・申請書はホームページ(<https://www.nikkyoko.or.jp/company/toyama>)からダウンロードできます。

公益財団法人 日本教育公務員弘済会富山支部 TEL 076-432-6562
株式会社 富山教弘 TEL 076-439-6834

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1(富山県教育記念館内)

(令和4年4月1日)

受給申請書

公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部 様

申請日 年 月 日

<会員区分>

<input type="checkbox"/>	勤務先	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
現		再	退
職	職員コード*	任用	職者

申請者名 _____ ⑩ (歳)

住 所 _____

下記の通り給付・補助の申請をいたします。(申請する事業名に□にチェックをつけて下さい。)

「個人情報の取り扱いについて」
 ● ご記入いただきました個人情報は当会の福祉事業の運営のために利用します。
 ● 当会の個人情報の取り扱いについては、当会ホームページ(<https://www.nikkyoko.or.jp/company/toyama>)をご覧ください。

事業名	科 目	添付書類	所属長の証明印は不要です
<input type="checkbox"/>	出生年月日 (西暦) 年 月 日 出生児名 (第 子)	母子手帳の 出生届出済証明 記載ページの写し	
<input type="checkbox"/>	入学年月 (西暦) 年 月 入学者名 (続柄) 入学学校名	①学生証コピー (6月末までの申請に限る) ②在学証明書 (発行日から3か月以内・写し可)	
<input type="checkbox"/>	受診年月日 (西暦) 年 月 日 受診医療機関名	ドック検診の 領収書(写し可)	

事業名	科 目	添付書類	証 明 欄
<input type="checkbox"/>	結婚年月日 (西暦) 年 月 日 申請者旧氏名	戸籍謄本(写し可) 又は 所属長の証明印	
<input type="checkbox"/>	死亡年月日 (西暦) 年 月 日 死亡者氏名 (続柄)	会葬御礼状(写し可) 又は 所属長の証明印	
上記記載事項を証明します。 年 月 日 学校(所属)名 学校(所属)長名		職印	

《受給金受取口座》 ■ご指定の口座に振り込みます。(申請書は月末で締め審査の上、翌月10日に送金します。)

金融機関名	支店名(いずれかに○)	預金種目	口座番号(右詰でお願いします)	フリガナ	
北陸銀行	本店・支店	普通		口座 名義	
	出張所				
	営業部				

※北陸銀行以外の場合は、二重線を引いて余白に記入ください。

(送付先)
〒930-0018 富山市千歳町1-5-1
公益財団法人日本教育公務員弘済会富山支部 宛

事務局使用欄

弘済会受付	会員確認欄	決定支給額
		円

* 申請書は、1年以内に上記へ送付願います。
 * この様式は、ホームページからダウンロードできます。
 (<https://www.nikkyoko.or.jp/company/toyama>)

おかげさまで70年



NIKKYOKO 2022